

◇高岡会館報恩講お初夜「親鸞聖人を語る夕べ」  
・会館報恩講勤修

今年も十一月二十五・二十六日の両日、会館報恩講が営まれ、二十五日夕方には教化団体合同によるお初夜「親鸞聖人を語る夕べ」が開催され、約六十名が参拝された。

この「語る夕べ」は会館が建てられた二年後の一九九四年から催されているもので、その趣旨として「報恩講の意義を考慮した企画を盛り込み、会館や寺院に來られることの少ない方々（特に青壮年層）への参加呼びかけの機縁とする」ことが目指されている。最初に、宗祖讃仰作法による音楽法要が勤められ、西岡教務所長の導師のもと、参拝者の方々と共に正信偈のお勤めがなされた。

続いて、鷺森昭見氏（高岡龍谷高校教諭・氷見西組浄善寺住職）から「今どきの若者」とみ教え―宗教教育の現場から―というテーマで講演が行われ、プロジェクトを使い、教諭という視点から、また僧侶という視点からの両方からの若者像について話をされた。今後もこの「親鸞聖人を語る夕べ」では、伝統的な法座の形態にこだわらない新しい法座のあり方を模索して、社会にある様々なテーマを取り上げていきたいとしている。



また、翌二十六日には、各組から出勤いただいたご法中の方がたにより午前・午後と報恩講法要が勤められ、講社連盟の講員の方々を中心に百六十名を超える方がたの参拝があり、池内瑞雄氏による（新湊組圓徳寺住職）ご法話、講題「願いのもとを聞く」を聴聞された。

### ◇第3回寺院女性会連盟研修会

沢 知恵 弾き語りコンサート開催

十二月三日(土)午後一時半より西本願寺高岡会館において、第3回寺院女性会連盟研修会が開催され、寺院女性会会員をはじめとする一一九名が参加した。

今回は、詩人でハンセン病を発病された塔和子さんの詩を歌にして活動されている歌手の沢知恵さんをお招きしてコンサートを企画した。

はじめに講師の岡西好持氏(ハンセン病問題ふるさとネットワーク富山・幹事)よりハンセン病問題の背景と取り組みについて話をいただき、その中で今もなお本名を名乗れず、社会復帰できない現況であることを強く述べられた。

さらに、生活保障を義務付ける法律が制定されているにもかかわらず、守られているとは言い難い状況であり、問題の風化が懸念されていることを学ばせていただいた。

引き続き沢さんのコンサートでは、ハンセン病療養所を十六年訪問しコンサートを続けている経歴を基に、病気を正しく理解し、入所者とのかかわりの中で交流をもち、人と人のかかわりを力強い歌を通してメッセージを届けて下さっているのを感じた。とても素晴らしい歌声に参加者全員が魅了された。参加者の多くは一緒に「故郷」を歌い、病気に苦しんでおられる方々の気持ちや思いを知り、涙があふれたと話した。

また、「胸の泉に」の詩は、とても心の中に響き、人は一人で生

### ☆仏婦ダーナ募金のご報告☆

教区仏婦連盟では、今年のダーナ募金の集金を12月5日(月)に行い、633,074円ものご寄付がありました。ありがとうございました。

集まった寄付金は、執行部会で協議の上、「社会福祉や災害で被災された方々への募金として寄付される予定です。

ご協力くださったみなさまに重ねて厚く御礼申し上げます。

合 掌

### ～職員人事について～

嘱託職員の高島敬子氏には、去る11月末日を以て、定年退職されました。それに伴って、「教区報」10月号で臨時職員の公募をいたしましたところ、高島氏1名が応募いただきました。

については、当分の間、これまでと同様の形で勤務いただくこととなりましたので、引き続きよろしく願いいたします。

以 上

きているのではなく、人と人が関わりながら生きていく、人として生きることの喜び、安らぎを分かち合い生きていかなければならないと強く感じたとの声も聞かれた。

最後に、サプライズで「恩徳讃」とボブ・デイルンさんの「風に吹かれて」を歌われ、このコンサートを終えられた。

寺院女性会 蟹谷 郁子

「ハンセン病問題の過去と現在」

去る十二月三日（土）に西本願寺高岡会館において第三回寺院女性会連盟研修会が開催されました。（詳細は記事にて）

歌の合間には沢さんとハンセン病療養所との関わりをお話いただきましたが、牧師であった父に連れられて生後六カ月の時にハンセン病療養所を訪れ、「よく抱いてあげてみてください」と言われたにもかかわらず、入所されていた方々は誰も沢さんを抱こうとしなかったが、成長してから再び青松園を訪問された際には、「あの時の赤ちゃん」と大歓迎されたエピソードをお話いただきました。

誰も沢さんを抱かなかったのは、乳児を抱いたことのある方なんて一人もいなかったから、そして自分たちが赤ちゃんを抱くことなんてとんでもない、という思いがどうしても残っていたから。しかし赤ちゃながこの療養所に来てくれたということが、子供を持つことを許されなかった入所者の方たちにとってどれほど衝撃的で複雑な思いだったか、だから十数年前の出来事であっても鮮明に記憶されていたのだと、沢さんはおっしゃいました。

この国のハンセン病政策は終生隔離でした。生活水準の低い貧しい国々に多いこの病気の患者が多数いることを国辱とし、隔離を徹底して死ぬまで閉じ込めておくことにより、患者のいない国にしようとしたのです。その背景には富国強兵のため、より兵士として適した壮健な国民ばかりにしようという思惑もありました。

しかし、当初はなかなか患者の収容はうまくいきませんでした。そのため国は全国の都道府県に呼び掛けて無らい県運動という運動を起こしました。恐ろしい伝染病だと喧伝し、偏見と恐怖を植え付けることによって、地域の人々が患者を通報するように仕向けたわけです。

また、患者自身も、家族が迫害されることを避けるため、自ら療養所に行かざるを得なくなりました。患者が生きていけない社会状況を形成することによって隔離を徹底するための運動が無らい県運動でした。

療養所に入所した患者を待っていたのは重労働と虐待、そして強制的な断種・不妊手術でした。それでも妊娠した場合は中絶が強制され、中絶できる期間を過ぎていた場合は早産させてから殺害していたという証言もあります。それがこの国のハンセン病療養施設の実態でした。

そのような反人道的な政策は特效薬が発見され、全快するようになった戦後も続けられ、患者たちの長い戦いの末に一九九六年になってようやくハンセン病政策の根拠となった悪法「らい予防法」が廃止されました。

しかし、それらのハンセン病政策によって根強い差別と偏見が社会に根付き、治っていても帰れない状況が未だに続いている、それが現在もお療養所に元患者の方がお住まいになっっている理由です。

この富山県に療養所はありませんが、この問題は私たちと無関係な問題では決してありません。無らい県運動に特に熱心であったのが富山県でした。のちに無らい県の達成を宣言した数少ない都道府県の一つとなりまます。この富山県からも療養所に連れて行かれ、そして今も療養所住まいの方がおられます。その方たちが社会復帰できない状況が今もこの富山で続いているからです。

この問題に対しての私たちの無知と偏見が元患者の方たちの社会復帰を拒んでいる大きな要因となっているのは明らかです。

阿弥陀如来は四十八の誓願の中で、人々が宿命・天眼・天耳・他心・神足・漏尽の六神通に目覚めることを願っておられます。しかし、それは超能力の獲得を目指せということではないと思います。

私たちは、見ようとしなければ目に映ってはいとも見えず、聞こうとしなければ耳に入っても聞こえません。目の前に苦しむ人が居て助けを求めていたとしても、無関心であればそれは眼に映らず耳にも届かないのです。相手を見ようとし、話に耳を傾けようとする事によって、初めて相手と向き合えるのです。他者の苦しみと共に感じ、それに目を向けようとするならば、自身の周囲だけでなく、世界中で起こる様々な問題を目の当たりにし（天眼通）、人々の嘆きを聞き（天耳通・他心通）、そのために様々な場所に足を運ぶ（神足通）というスタートラインに立つことでしょうか。六神通獲得の誓願は他者の苦しみに目を向け耳を傾ける人間であってほしい、という願いだと私は受け止めています。その願いをいただけて生きる私たちはこの問題とどう向き合うのか、まさに信心が問われる問題だと考えます。まずは聞いて見て知っていただきたい、正しい知識を身に付けていただきたいと思います。それがハンセン病問題の解決に向けての大きな一歩となるように思います。

◇これからの日程（12/19～1/20）◇

| 12月 | 教区・財団行事   | 教化団体・組行事            |
|-----|---|---------------------|
| 19  | 組長会   |                     |
| 20  | 連研のための研修  |                     |
| 21  | 得度考査、教学開発室  |                     |
| 22  | 財務委員会、特別委員会   | ビハーラ役員会             |
| 23  |   | 仏の子どものつどい<br>(福光教堂) |
| 28  | 午後から事務休業<br>(～9日)   | 長寿苑ビハーラ活動           |
|     | <b>12月28日の<br/>午後より、1月9<br/>日まで、教務所事<br/>務休業いたしま</b>                                    |                     |
| 1月  |   |                     |
| 10  | 教務所事務開始<br>教学研究室  | コーラス (昼)            |
| 14  | 常例法座  |                     |
|     | <b>1月14日～16<br/>日まで、親鸞聖人<br/>御正忌報恩講のた<br/>め教務所事務休業<br/>いたします。(常例<br/>法座はございま<br/>す)</b> |                     |
| 19  |   | 仏婦執行部会              |
| 20  | 教区新年会<br>100年史シンポジウム  |                     |

☆お知らせ☆

「法輪せんべい」販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱 (175袋) 8,300円

・大箱 (36袋) 2,300円

・1組 (10袋) 500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内  
(寺族青年会担当)

Tel. (050) 5587-7708(代表)

Fax. (0766) 21-5152

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送 (KNB)・73.8kHz.

◎毎週土曜日 (本山制作) 午前6:15～6:25

□第2・4日曜日 (富山・高岡制作) 午前6:00～6:10

◎12/24 (土): 池田 恵俊氏

(滋賀県長安寺住職)

「親鸞聖人のご遺徳を偲んで」

□12/25 (日): 未 定

(高岡教区)

◎12/31 (土): ゲストなし

(祖徠さん一人喋り)

(奈良県西光寺坊守)

「2016年を振り返って」

◎1/7 (土): 安永 雄玄氏

(築地本願寺宗務長)

「年頭の挨拶」

□1/8 (日): 未 定

(富山教区)

◎1/14 (土): 若林 唯人氏

(本願寺派布教使・大阪府光照寺衆徒)

「未 定」

◎1/21 (土): 若林 唯人氏

(本願寺派布教使・大阪府光照寺衆徒)

「未 定」

【西本願寺高岡会館1月の常例法座】

ご講師: 安居美可子氏

(高岡教区伏木組禅龍寺)

ご講題: 『未 定』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。